



ふるさとに戻って見えた、

地域のあたたかさ

移住者の声

No.01

作問 大作さん
智美さんご家族

【特集】

山元で暮らす、つながる。

— 移住者が語る

「ここで暮らす理由」—



全国的に人口減少が続く中、町がこれからも活力を保ちながら発展していくためには、未来を見据えた取り組みが欠かせません。これまで、山元町では移住・定住支援補助金や空き家バンクなど、住まいと人、地域と人をつなぐ仕組みを整えてきたほか、子育て支援にも力を入れてきました。こうした制度面のサポートに加えて、町の豊かな自然や地域の方々の温かさでも移住を後押しする魅力となっています。

本特集では、山元町への移住を選んだ皆さんが語る「ここで暮らす理由」をご紹介します。

町の魅力や、これからの地域づくりのヒントを、移住者の視点から探っていきます。

2年前に山元町へUターン移住した作問さんご家族。自然豊かな環境と地域のつながりを求めて、ご夫婦のふるさとである坂元地区に新たな生活を築きました。

移住のきっかけは「家族」と「地域」

ご夫婦ともに山元町出身の作問さん。「親戚も多く、知り合いもいる山元町に戻るのには自然な選択でした」と大作さんは語ります。智美さんの実家が近く、子育て環境や教育面でも安心できることが大きな決め手だったそうです。「子どもの高校進学の見据えも広がることから、将来を見据えて住まいを選びました」と智美さんは話します。

地域で育つ子どもたち

移住後、子どもたちはすぐに地域に馴染み、学年を超えて友達と遊ぶ姿が見られるように。「学校が近くて安心ですし、先生方も一人一人を丁寧に見てくれるので、ありがたいです」と智美さんは話してくれました。

坂元地区は、夏祭りや芋煮会、イルミネーションなど、イベントが盛んで、地域全体で子育てを支える雰囲気があるといえます。「行事に参加すると、久しぶりに会う人とも自然に会話が生ま

暮らしの中で見える課題と希望

「スーパーは町内に1カ所のみですが、車で出かけられる今は特に不便はありません。しいて言えば、コインランドリーが近くにあったら助かります」と大作さん。

「福島県内や仙台方面へ通勤する人もいますが、働く場所がもっとあれば、若い世代も戻ってきやすいはず。坂元地区は地域の温かさが残る良いまちです。若い世代や子育て世帯も住みやすいので、ぜひ移住してほしいです」と、町の未来を見据え、語ってくれました。



① キヤッチボールを楽しむ親子
② ③ 庭先で遊ぶ子どもたち

Sakuma Family

新地町
↓
下郷区



移住の時期 令和5(2023)年9月転入



小野川 昌義さん
おののかわ ますよし

弥生さんご家族



この町で育てたい

地域の温もりがあるからこそ

山元町に移住して12年目を迎えた小野川さんご家族。弥生さんの実家の近くで子育てをしたいという思いから、町内のアパート暮らしを経て、家族5人で暮らす一戸建てを購入しました。

家族で作った庭が 日々の幸せの源に

「子どもが成長するにつれて、部屋が必要になってきて、特に長男には自分の空間を持たせてあげたくて、家を買う決断をしました」と昌義さん。

「家族みんなで芝生の庭を作りました。小さいけれど家庭菜園や砂場も作り、子どもたちが楽しそうに遊んでいる姿を見るのが何よりの幸せです」と弥生さんも笑顔で語ってくれました。

地域とのつながりが、暮らしを豊かに

山下区に住み始めてからは、消防団や神社の神楽会など、地域活動にも積極的に参加。「初めは知り合いがあまりいりませんでした。今ではたくさんで迎えてくれて、本当にありがたいです」と昌義さん。

「近所さんから野菜をいただいたり、行事に誘ってもらったり、地域のつながりがあるって、心強いですね」と弥生さんは話します。

子育てしやすい町、山元町

「少年の森もリニューアルされて、遊びやすくなりました。小さい子ども用の遊具がもう少しあるといいですね」と夫婦。

「山元町は自然が豊かで、のんびりとした暮らしができます。畑で作物を育てながら、子どもと一緒に収穫する時間も楽しいです。人も優しく、子育てにぴったりの町です」と話してくれました。



①芝の手入れをしながら子どもたちと過ごす休日
②地域の春祭りに参加する昌義さん
③楽しく遊ぶ手作りの砂場

空き家がつなぐ、

新しい暮らしとご縁



高野 輝さん
たかの あやこ
綾子さんご夫婦

花に囲まれた 古民家との出会い

空き家バンクで見つけたのは、真庭区の阿部金夫さんが所有していた空き家。庭には四季折々の花や果樹が植えられ、阿部さんの兄の思い出が残る家でした。「最初に訪れたとき、眺めの良さ、花の美しさに心を奪われました。通ううちに地域の方にも声をかけていただき、ますますこの町が好きになりました」と綾子さん。

DIYで築く自分たちの家

空き家を購入後、ご夫婦は家の改修を自ら手がけました。「初めての大作業で、分からないことだらけでしたが、阿部さんからいろいろ教えてもらいました。床も天井も手作業で、断熱材を入れたり、素材を探して塗ったり、お気に入りの家具を作ったりしました」と輝さん。「猫たちは最初は怖がっていましたが、今では畑や近所を散歩したり、広い縁側でお昼寝したり、この家の生活を満喫しているようです」と綾子さん。

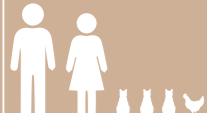


①庭先で笑顔で寄り添うご夫婦
②部屋には暖炉を設置
③庭で烏骨鶏を飼育
④阿部さんと言葉を交わす輝さん

四季折々の自然と 地域のぬくもりにも包まれて

「若い人が増えてほしいですし、自然を愛する人にたくさん来てほしい」と語るご夫婦。移住を考えている方に向け、「まずは山元町に通って、四季折々の自然を感じてほしいです」と話してくれました。

Takano Family



移住の時期 令和5(2023)年8月転入

空き家所有者の声

空き家バンクがつかないだご縁

空き家バンクは知人に教えてもらって登録しました。高野さんが何度も通ってくれて、誠意が伝わってきました。自分が生まれ育った思い出のある家を大切に住んでくれる人に引き継ぐことができ良かったです。



阿部さん

Onogawa Family



移住の時期 平成26(2014)年9月転入→令和5(2023)年5月新居へ転居

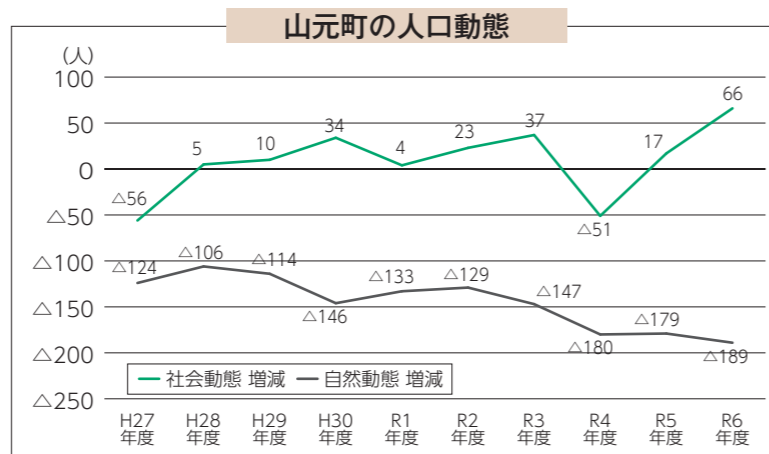


移住・定住人口の拡大を目指して

山元町は社会増が続く

日本の人口は平成20(2008)年をピークに減少が続いていますが、宮城県ではそれより早い平成15(2003)年をピークに減少が始まっています。

山元町も人口の減少は避けられない状況にあり、出生数が死亡者数を下回る「自然減」が続いています。一方で、各種施策の効果もあり、平成28年度から令和6年度までの9年間のうち、令和4年度を除く8年間、転入者数が転出者数を上回る「社会増」を達成しています。



「消滅可能性自治体」からの脱却

移住・定住支援策などの効果が実を結び「消滅可能性自治体※」から脱却しましたが、引き続き、人口減少、少子高齢化という課題と向き合っていかなければなりません。

※消滅可能性自治体とは

人口減少によって将来的に地域社会の維持が困難になる可能性が高いとされる自治体

住宅取得による転入実績

平成20年度から令和6年度末まで

407世帯 1,128人

このうち約50%以上が

新婚・子育て世帯

218世帯 695人

“住みたいまち”・“選ばれるまち”を目指して

町では、移住希望者向けに、住まいや子育てなどの各種支援制度や地域の情報を提供しているほか、移住に関するさまざまな相談に応じるとともに、移住者向けのWebサイトや動画配信などで町の魅力を発信しています。

進学や就職がきっかけで一度町を出たけど、結婚や出産・子育てを機に「ふるさとに帰りたい人」、都会の喧騒を離れて静かな町で「穏やかに暮らしたい人」など、移住を考えている人に選ばれるまちを目指します。

移住や子育てを後押しする支援制度や取り組み(令和7年度実施内容)

〔移住支援〕

- 移住・定住支援補助金
住宅を取得して移住・定住する新婚・子育て世帯などを対象に最大300万円を補助
- 宮城県移住支援金
東京圏からの移住者に最大100万円(子ども1人につき+100万円)を支給
- 結婚新生活支援補助金
婚姻を機に新生活を始める新婚世帯を応援。家賃や引越し費用を補助
- 空き家バンク事業
空き家の売買・賃貸情報を町が情報提供し、空き家の利活用を図る
- 移住相談・イベント出展
県内外の移住イベントへ出展し、町の魅力や支援制度を紹介

〔子育て支援〕

- 小・中学校の給食費完全無償化
- 18歳まで医療費無料
- 出産お祝い育児支援チケット
- ベビーバス・ベビーベッドの無償貸出
- 私立幼稚園等入園補助金

このほかにも、年齢に応じた支援制度があります。詳しくは、町ホームページをご確認ください。



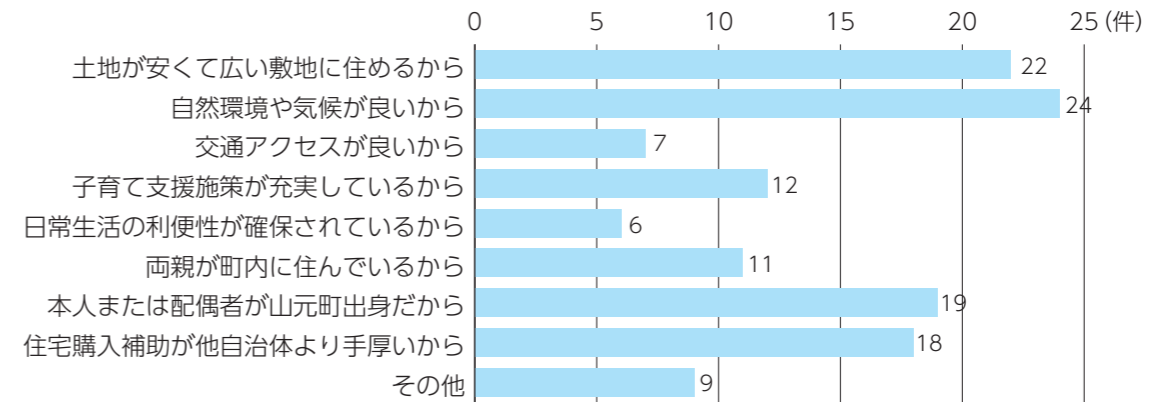
子育て定住推進課 子育て定住推進班 ☎ 36-9835

“やまもとで暮らす”移住者の声

町の移住・定住支援補助金を活用して令和4年度以降に転入・転居した世帯を対象に、移住の理由や町での暮らしについてアンケート調査を実施しました。(回答者数54人)

山元町を転入・転居先に選んだ理由

「自然環境や気候が良い」が最も多く、「土地が安く広い敷地に住める」「本人または配偶者が出身地」「住宅購入への補助金額の手厚さ」などが挙げられました。山元町を新しい暮らしの場として選んだ主な理由は、自然の豊かさと町の充実した移住支援にありました。(複数回答可)



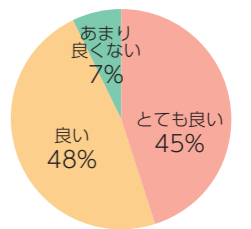
その他意見：職場が山元町、夫婦の職場の中間の場所、人が良いから など

実際に暮らしてみた感想

調査の結果、回答者の45%が山元町に実際に暮らしてみて「とても良い」、48%が「良い」と回答し、合わせて93%が満足していることが分かりました。

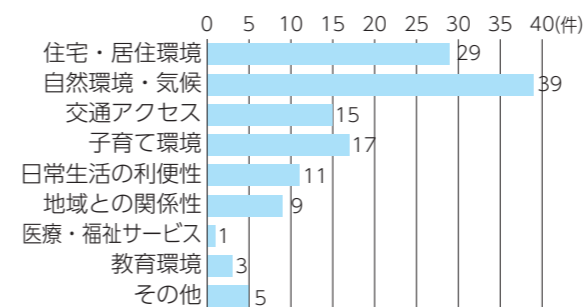
また、暮らしてみて「良かったと感じること」「不満を感じること」の問いについては次の結果になりました。

(アンケート結果)



良かったと感じること

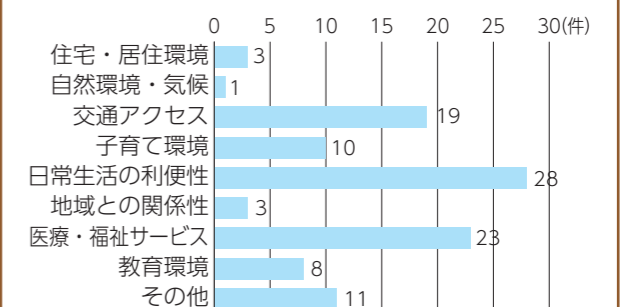
自然環境・気候が最も多く、次いで、住宅・居住環境、子育て環境でした。(複数回答可)



その他意見：仙台居住の頃より移動時間が各段に短くなった、穏やかに生活できている など

不満を感じるごと

日常生活の利便性が最も多く、次いで、医療・福祉サービス、交通アクセスでした。(複数回答可)



その他意見：飲食店が少ない、夜の21時でタクシーが拾えない、産婦人科のある病院がない など

「転入・転居先に選んだ理由」のうち、回答数が多い項目が、実際に暮らした後の「良かったこと」として実感されています。一方で、暮らしの利便性や医療・福祉サービスに課題を感じているという声があり、安心・快適な暮らしを支える環境づくりが必要とされています。